

【基本方針】

団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う

【年間目標】

- ① 言葉使い、礼儀を徹底する
- ② 基本的なサービスの質を向上し、維持していく
- ③ レクリエーション・行事を充実し、楽しい施設生活を送る
- ④ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を常に意識する
- ⑤ 短期入所と合わせて 99.5%以上の稼働を目指す

【実践報告】

① 言葉使い、礼儀を徹底する

- ・日頃より人生の先輩であるという敬う気持ちを持って接することを心掛け、概ねできていたが、危険を伴う時には大きな声を出したり、行動を静止するような内容の発言が出ることがあった。日頃より利用者の行動を把握し、慌てることのないような状況を作り上げていきたい。
- ・基本的に丁寧語で話すことはそれぞれ意識できていた。また、どの利用者に対しても「さん付」で対応できていた。引き続き常に相手の立場に立った行動、言葉遣いができるよう、ふるさとの職員であるという意識と自覚を持ち、しっかりけじめをつけた行動をしていく。
- ・行動基準とした①笑顔②明るい挨拶③正しいお辞儀については、③が少し弱い部分である為、再度職員間で評価し合い、見本となる職員が一人でも多くなるようお互い切磋琢磨していく。

② 基本的なサービスの質を向上し、維持していく

- ・会議を中心に日々の申し送りの中で、利用者にとって適切な介護技術が提供できるように話し合いを重ねた。職員からも「介護方法の統一」という意識ができていく。しかし時に守れず、事故に繋がることも見られている為、適切な介護方法の統一により利用者が安全に生活できることを理解できるようにし、チームケアであるという意識を確立させていけるようにする。
- ・部署内での勉強会はその時に必要な内容に変更し、事前に企画していた計画を外して行うこともあった。今までと同様、自ら講師となることもあるためか、学ぼうという積極性がみられる職員が多く、この意識を継続できるようにしていきたい。
- ・身体拘束をおこなっている方は年度末には3名となっている。全面的に解除にはできないが解除できている時間が増えている利用者もあり、全員解除できる事を目指していく。

- ・事故については2名の方が市への事故報告書を提出することとなった。介護度が平均4以上が続き、利用者は重度化している。転倒では骨折に繋がることもあったが、ずり落ち・皮膚損傷（内出血・剥離等）等、介護方法が原因と考えられる事故も多くなっている為、介護技術について更なる向上、適切な介助の方法を確立できるようにしていく。
- ・感染症については嘔吐や風邪等症状により一定期間隔離をする等の対処をした為か、ノロウィルス・インフルエンザに感染した利用者もなく過ごすことができた。
- ・看取り介護を提供した方は8名だった。どの利用者もご家族が住み慣れた施設での最期を希望され、最後を迎えた後、「ここで最期を迎えることにして良かった」というご家族の言葉が聞かれた。今後もできる限り利用者、ご家族に寄り添い、より良い看取り介護が提供できるように多職種連携により実践していく。

③ レクリエーション・行事を充実し、楽しい施設生活を送る

- ・例年多くのご家族が参加頂ける納涼祭は今年度も多くの参加を頂いた。年間の各種行事の中で、お花見や敬老祝賀会にご家族に参加頂けた。日々の行事については施設内に開催の案内を貼る等の工夫をおこなった。
- ・外食レクリエーションや地域の行事等に参加できる方は計画を立てて参加した。しかし参加しにくい方に対し、施設内で日々のレクリエーションを工夫したが、限られた内容となる為、引き続きレクリエーションの内容を検討していく。

④ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を常に意識する

- ・ご入居者の環境整備に向け、職員の動線の確保や必要物品の配置等、多職種で相談し改善した。

⑤ 短期入所と合わせて99.5%以上の稼働を目指す

- ・今年度の年累計→100.7%（ロングのみ年累計97.4%）
目標の稼働を達成することができた。
- ・稼働を達成できた要因は、年間の13名のスムーズな入退去、1.4人の平均入院者数であると考えられる。看護師と介護士の連携、また嘱託医の理解により達成できた。

【苦情受付】0件